



平成21年度



事業報告書



〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13
TEL.075-641-0911 FAX.075-641-0912
<http://www.miyako-eco.jp/>



発行 平成22年8月



「新しい時代に向けての京エコロジーセンターの取り組み」

京都市環境保全活動センター（京エコロジーセンター）は1997年12月に京都市で開催された「地球温暖化防止京都会議（COP3）」を記念して環境学習、環境保全活動の拠点として、2002年4月に開設されました。

京エコロジーセンターの事業は運営方針については設立当初から市内の環境団体、事業者、学識経験者などによって構成される事業運営委員会によって決定され、事業運営委員会のメンバー、地域団体と、京エコロジーセンターの職員とのパートナーシップのもとで運営されてきました。

これまで、数多くの環境保全活動を手がけてきましたが、環境問題も京エコロジーセンターを取りまく情勢は設立当初から少しずつ変化してきています。すなわち、日本の温暖化対策の強化、小中学校生のカリキュラム変更に伴うエコ学習の縮小、ボランティア（エコメイト、京エコサポーター）の充実などがあり、これらの情勢の変化に合わせた運営が求められています。

幸い、京エコロジーセンターの職員やボランティアの精力的な取り組みによって、年々活動内容も充実したものになりつつあります。また、この種の環境学習拠点として全国的にも、海外からも注目される存在にもなりつつあります。

そこで、京エコロジーセンターではこれらの活動成果をさらに多くの人に知っていただくために、毎年、事業報告書を作成しています。

さらに、京エコロジーセンターでは中長期計画を策定し、外部の評価委員の参加も得て、事業の進行管理も行っています。この事業報告書は、事業の進行管理の上でも重要な役割を担っています。

環境教育・環境学習のプログラムにおいても、常に、ふり返りと見直しが求められるのと同様に、京エコロジーセンターの活動内容も常に見直しを行い、進化させることが新しい時代に向けた組織のあり方であると思われます。

確かに、事業の評価や見直しは大変苦しい作業ではありますが、恐らくこれからも時代は大きく変化していくと思われます。これに的確に対応して、京エコロジーセンターの使命でもあります持続可能な社会に活躍できる人材を育成するためにはやはり不断の努力が必要です。その意味で、多くの方々にも本事業報告書に目を通していただき、京エコロジーセンターの事業に関して忌憚のないご意見を賜れば幸いです。



京エコロジーセンター
（京都市環境保全活動センター）

館長 高月 紘

1 人づくり・場づくり・仕組みづくり事業分野 …… 02～22

- 1 館外・館内の環境学習プログラム開発(企画・開発) …… 03
- 2 館内案内・団体見学(実践) …… 07
- 3 環境ボランティア組織 …… 11
- 4 子どもから大人まで環境ひとづくり …… 15
- 5 インターン研修生受入 …… 18
- 6 イベントプログラムの企画と実施 …… 20

2 いろいろな主体による環境保全活動への支援事業分野… 23～33

- 1 地域での環境保全活動支援 …… 24
- 2 環境保全活動団体へ助成支援 …… 29
- 3 事業者、学生による環境保全活動への支援 …… 31

3 持続可能な地域社会への提案、情報発信と交流事業分野 … 34～37

- 1 情報発信・広報対策 …… 35

1

人づくり・場づくり・仕組みづくり 事業分野

地球温暖化防止や大量生産、大量消費、大量廃棄という社会の仕組みの是正に向けた活動を推進していくための「人づくり、場づくり、仕組みづくり」を、市民、NPO、事業者、大学等教育研究機関、行政等とのパートナーシップにより協働して行います。

- 1 館外・館内の環境学習プログラム開発(企画・開発)
- 2 館内案内・団体見学(実践)
- 3 環境ボランティア組織
- 4 子どもから大人まで環境ひとづくり
- 5 インターン研修生受入
- 6 イベントプログラムの企画と実施



1

館外・館内の環境学習プログラム開発 (企画・開発)

- 環境学習プログラム作成
- 常設展示の企画・作成・保守
- 環境啓発ツール制作

環境学習プログラム作成

館外・館内の環境学習プログラム開発(企画・開発)

目標 1

来館者層の現状として子どもが多数占める中で、体験プログラムが「エコ虫探検」のみであるため、「幼児向け環境学習プログラム」を重点的に開発します。

結果 1

環境教育プランナーによる幼児向けプログラムについての職員研修(8月)を実施し、12月まで月1回の企画、試行を積み上げるパートナーシップ型で作成しました。この職員研修を通じて、幼児向けプログラムについて理解が深まり、5本の企画案が完成しました。また、プログラム化に向けては、「京エコ劇場」にてブラッシュアップを図りました。

結果 2

既存の「エコ虫探検」に夏期特別版「シークレットエコ虫」のほか、3本の企画案を作成しました。22年度に試行を重ね、ブラッシュアップを図っていきます。



「現場で使える副読本」に注力



青風幼稚園の協力により、幼児向けプログラムを開発



館外でのプログラム展開を見出した(四条京町家)

目標 2

「館内団体見学、案内活動」に対する、実施スタッフ(職員やボランティア)のスキルや内容にバラツキのある現状を把握し、スタッフの個性ある案内活動を尊重しながら、ねらいとゴールを明確にした「モデルコース」などのガイドマニュアルを作成することで、プログラムの「見える化」を実現します。



館外プログラムを開発し、実施(四条烏丸周辺)

目標 3

出前学習に備えた館外でも使える環境学習プログラムとツールの開発に手がけます。



出前授業(京都市立北醍醐小学校)の様子

目標 4

学校現場の意見やニーズをもとに、小学5年生用環境副読本を編集委員会で作成し、配布します。

結果 1

4年生版(206校)、中学生版(105校)を配布しました。

結果 1

実施スタッフの実体験に基づいた、スタッフ自身の言葉で案内できるようになるための研修を実施。

結果 2

案内活動を写真で記録し「振り返り」に使用するなど、体験学習システムを模索しました。

結果 3

子どもへの環境教育の「場づくり」についての学習の機会をボランティアスタッフに提供しました(任意参加研修)。

結果 1

京都市立北醍醐小学校で出前授業を実施しました(9月)。授業内容を参考にグリーンカーテンを素材にしたプログラム化を目指しました。

伏見区役所深草支所の職員研修を担当しました(12月)。エコ学習の新メニュー「環境実験教室」プログラムを作成し、出前授業を見越したプログラム・ツールの開発を行いました。

結果 2

京町家をフィールドに体験型プログラムを実施(8月、参加24人:受託事業、公募型)、2月にも3回実施(59人、冬季プログラムも可能な実感を得ました)しました。

“町衆”の理解と協力が成功のキーポイントであり、「都市型エコツアー」のプログラム化に展望を切り開くことができました。

結果 2

新規編集の5年生版(206校)は、副読本編集委員会を立ち上げ(7月)、以降「自然」「くらし」「環境」のワーキンググループで編集。京都市と調整の上、5月に配布しました。

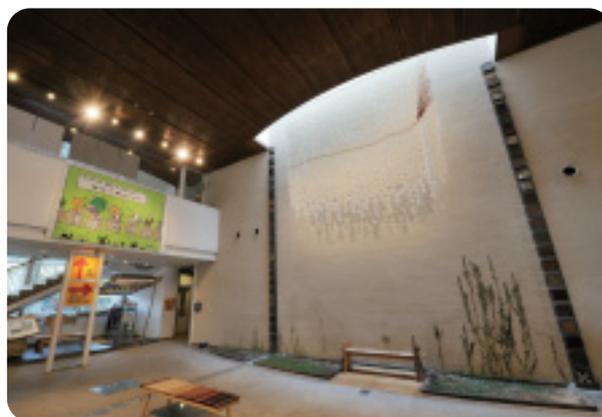
副読本編集委員会の委員17人の内、市教委から2人、小学校(先生)から5人が参加しました。

常設展示の企画・作成・保守

館外・館内の環境学習プログラム開発(企画・開発)

展示のリニューアル

- 山、森林、木とヒトの生活を関連付けた展示を設置しました。
- アースモニュメントの移動等によりスペースを確保し、案内活動やプログラム実践が充実しました。またエントランスの賑やかさを視覚的に演出しました(エコメイトとの協働作業)。
- ミミズコンポストのリニューアルを行いました。ビオトープと併せ「命ある展示物」として屋上に設置しました。



気温上昇をデザインした大型タペストリー

目標 1

エコメイトが展示制作に関わるきっかけづくりとして、エコメイト本人が勧める「環境配慮型商品」をグリーンコンシューマーコーナーに設置します。

結果 1

「環境配慮型商品」の設置提案を呼びかけたものの、提案が無かったため、今後、呼びかけの方法や、取組方法を改めることにしました。



3階北側ガラス面にグラフィックを新設

目標 2

「地域のエコロジー」「エコミュージアムガイド」の活用方法を検討します。また北側ビオトープの季節による変化に合わせ、その状況に適した展示デザインをガラス面を活用して作成します。

結果 1

新しい環境学習プログラムに対応した展示を目指しました。現在、「地域のエコロジー」「エコミュージアムガイド」が設置してあるエリアの活用状況を考え、エリアの意義を踏まえた上で、移設の方向で検討を継続することになりました。

結果 2

ビオトープの季節による変化に合わせたガラス面デザインの変更をしました。
年度中に季節に合わせることは出来ませんでしたが、中学生インターンが提案したビオトープまでの道を「たんけんロード」として描きました。



人と木の関わりを考える展示を新設

結果 3

「入りたくなる館」に向け、展示を工夫しました。
1階北側ガラス面に外向けにグラフィックを設置し、科学センターの来館者にPRしました。

目標 3

温暖化問題を考える一環として、日本の木に関する展示を作成します。また温暖化による気温上昇やCOP15に関する資料を作成し展示します。



ベンチの増設により、休憩スペースを確保



大人気の木琴ベンチ

結果 1

木の展示が完成しました。

1階：ひととき(人と木)、木製イス(4種)、地球温暖化による平均気温の上昇をデザインした大型タペストリー、館長マンガタペストリー(12枚)を作成し、展示しました。

3階：北側ガラス面にグラフィックを施しました。

COPに関連しては、展示「ニュースで見る温暖化」をリニューアル案を制作しました。

結果 2

展示担当職員が木育に関する「ハンズ・オン」展示研修を受講しました。

環境啓発ツール制作

館外・館内の環境学習プログラム開発(企画・開発)

目標 1

環境啓発パネルや省エネ体験グッズなど、学校での環境教育、地域での環境啓発、イベント等の用途に合わせた環境啓発グッズを開発します。

結果 1

結果 2



2

館内案内、団体見学(実践)

■一般来館者対応

■団体見学

館内案内、団体見学(実践)

一般来館者対応

目標 1

自由見学プログラム別体験者数を把握し、来館者の満足度が高い見学プログラムの開発と実施に向けた態勢整備を行い、順次手がけていきます。

結果 1

団体向けプログラムを一般来館者向けに手直しをしました。



オープンスペースでの学習プログラムを実施

目標 2

容易で楽しく感じられる案内活動を目指した案内人のスキルアップを目指し、センターならではの「コミュニケーションが図れる研修」を実施し、案内活動の活性化を目指します。

結果 1

案内活動等で来館者とのコミュニケーションに役立つ「伝え方研修」をテーマに、ボランティアを対象としたステップアップ研修を実施しました(7月)。



案内スキルの向上を図る研修

目標 3

環境問題にあまり関心のない来館者に対して、エントランスホール等での「館内誘導」アクションの内容を検討し、積極的に展開していきます。



団体向けプログラムを一般来館者向けに応用

目標 4

来館者に最初から「リアルな環境問題」で接するのではなく、「やわらかな」「楽しげな」「ユニークな」話題(ネタ)から学習の場へ誘導していく手法を実践します。

**結果 1**

館内で実施されていたアクティビティをエントランスホールでもオープン形式で実施しました。このアクティビティの様子や賑やかさが、興味や関心をひきっかけ(フッキング効果)をもたらしました。

目標 5

案内を希望しない来館者が館内を見学する際に使えるガイドブックやワークシートを考察します。

結果 1

“木の展示”の完成に合わせて、ワークシートの企画開発を継続して行うことを確認しました。



オープンスペースでプログラムを実践



館内案内、団体見学(実践)

団体見学

実績

213団体 5,911人(前年/271団体/8,850人)

(うち、海外:37団体/628人 20年度:26団体/538人 19年度:683人)

特徴的減少要因

- 4月:京都市新規採用職員研修未実施、カリキュラムの見直しによる小学校4年生団体見学
- 5~7月:新型インフルエンザによるキャンセル
- 7月:中学校のカリキュラム変更

目標 1

団体見学者の要望が多様化する中で、既存の7つのプログラムを見直して新しいプログラムに仕上げ、試行していきます。

結果 1

エコ学習プログラム「ごみ減らし隊」「地球温暖化プログラム」を団体見学向けの30分バージョンで、「エコ虫たんけん」プログラムを3種類作成しました。

エコ学習で使用するプログラムの完成度の高さが見学者の満足度につながっています。

(資料)

対象	時間	人数	プログラム
幼児	60分	30人以下	エコ虫たんけん
小学校低学年			ゴーゴー!ごみ減らし隊、水減らし隊、エネルギー減らし隊
小学校高学年		エコ学習(地球温暖化)	
小学5~6年生	約90分	約40人	テーマ:ごみ、水、自然エネルギー、食、自然等
中学生・高校生			温暖化(展示、建築物)、環境学習
大学生~大人	60~120分	100人以下	



団体見学の10%を占める海外からの見学者

目標 2

来館目的の事前把握の精度を高め、見学者の期待に応えるための受付マニュアルを徹底します。

結果 1

申込書を精査し、「ニーズ」に合わせたプログラム展開が可能になりました。

結果 2

申込みの仕組みをホームページからダウンロードできるように変更しました。職員が申込みの流れを共有できるフローチャートを作成しました。



21世紀東アジア青少年大交流計画による来館も継続

目標 3

来館促進を図る広報態勢の充実とアンケートによる見学後の感想やニーズの把握を行います。

結果 1

リピーター獲得に向け、過去の団体見学者に対し、事業PRパンフレットなどを発送した。
現場アンケート、追跡アンケートの実施が課題として残りました。



ボランティアによるお客様へのニーズに合わせた案内活動



案内人のスキルアップ研修も継続して実施



3

環境ボランティア組織

- エコメイト活動支援
- 京エコサポーター活動支援

環境ボランティア組織 エコメイト活動支援

2009年度エコメイト参加状況

登録者数(7~9期生)72人

回数	0	5未満	10未満	20未満	30未満	40未満	50未満	100未満	100以上	延べ数
●案内・エコ学習	17	5	9	4	10	7	8	11	1	(72人)
●団体見学										1,819回
●チーム活動		30	9	8	7	1	0	0	0	(72人)
●他の活動										401回
●館外出展										77人

(注)他の活動は主に研修、交流会、エコセンクラブ、イベント等交通費支払対象の参加者です。

目標 1

環境を取り巻く状況の変化やボランティアの質的变化により、職員とエコメイトの関係について、双方向の関係性や連携手法などの課題を抽出し、議論のテーマを絞っていきます。



ボランティアの独自企画によるイベントを実施

結果 1

職員4人がボランティアコーディネーター3級を取得しました。(ボランティアコーディネーター全国大会に参加し、ネットワークの充実を図りました。)

結果 2

ボランティアコーディネートをテーマに、職員間での共通認識を図るとともに専門家を交えて研修を行いました。
職員研修「ボランティアとは・ボランティアコーディネーションとは」(8/3 龍谷大学 筒井のり子さん) コーディネーション研修会(11/15 新規養成講座担当講師)

結果 3

環境ボランティアの「声」に1週間以内に返答する「質問解決シート」の運用を9月から開始しました。返答(回答)により、質問内容の解決で意欲や活動への関心が高まり、職員との信頼関係がアップする効果を期待しました(活用事例4件)。

目標 2

今日までのエコメイトの活動内容を検証し、案内活動及びチーム、サークル活動の円滑な推進に向けた「エコメイト・ミーティング」の定期開催と体系的ステップアップ研修を行います。



ボランティアを対象にしたステップアップ研修

結果 1

エコメイト・ミーティングを月1回定例開催し、エコメイト活動に関する課題の抽出も行いました。

結果 2

チーム活動の活性化と知識習得のため、チームが独自に企画した「他施設等への見学会」に対して、ルール(実施細則)を策定し、交通費補助を開始しました。またチーム・サークル活動の役割や目的をセンター事業の絡みから再考することを決定しました。

結果 3

体系的研修に関しては、22年度にプログラムを策定し、3年間の研修プログラムを策定することを決定しました。館内案内モデルコースの研修は好評でした。

京エコサポーターとエコメイトの交流の場を11月と翌年の2月に実施しました。

目標 3

新規ボランティアの養成:募集広報の検討と講座の開催。

結果 1

有償、無償の広告先を拡大、最終応募者は30人、受講者29人、登録者25人(10期生)

日	講座内容等
9/27	オリエンテーション
10/10	ボランティア事始め
10/11	学習、活動グループ運営きほんのき
10/18	環境問題きほんのき
11/7・8	環境学習の場をつくり、まわすきほんのき
12/5	これからのエコメイト活動に向けて
1~2月	現場実習
2/14	登録説明会



エコメイトミーティングを定期開催

結果 2

応募者には、若い方が多く、応募者層に変化が見られました。また、今回は環境問題への関心が高い比重を占めましたが、今後はいかにインタープリターに関心のある方の応募を得るかが課題となっています。

結果 3

6回全部の講座出席が困難な受講者もあり、受講のモチベーションが維持できる対策として、スタッフが資料送付でフォロー、途中脱落防止に効果を発揮しました。

結果 4

新規養成講座を、養成からエコメイト、エコメイトから京エコサポーターを視野に実施しました。



目標 4

学生や企業人を対象としたボランティア制度を研究します。

結果 1

夏期の大学インターン生の一人がボランティアに登録しました。短期ボランティア制度や学生ボランティア制度への意見が期待できます。また他の施設での学生の活動について情報収集を行いました。



年度末イベントを企画するボランティアによる実行委員会

京エコサポーター活動支援

環境ボランティア組織

2009年度京エコサポーター参加状況

登録者数：91人

回数	0	5未満	10未満	20未満	30未満	40未満	50未満	延べ数
●案内・エコ学習	39	28	5	11	7	0	1	(91人)
●団体見学								453回
●他の活動		45	7	0	0	0	0	(91人)
								68回
●館外出展								96人
●省エネ・ごみ学習法								(28人)
●くらしの匠							140回	

(注)他の活動は主に研修、交流会、エコセンクラブ、イベント等交通費支払対象の参加者です。

目標 1

サポーター交流会等でサポーターによるサポーター組織の運営のための「組織化」が可能かどうかの意見交換を行い、サポーターとセンターの合意にむけて協議を開始します。

結果 1

京エコサポーター同士が交流し、活動の活性化に向け、「自主運営組織(代表制)」について京エコサポーター交流会で議論(10月)しましたが、結論に到達できませんでした。

結果 2

京エコサポーター交流会を12回開催し、参加者の活動事例報告を毎回実施しました。



定期的な交流会を実施

目標 2

地域の要望に応えたイベントや学習会の内容等を把握した上で、講師派遣に見合う京エコサポーター研修を順次実施していきます。

結果 1

省エネ・ごみ減量学習会の講師の募集継続とスキルアップに向けた意見交換会を実施しました。

結果 2

地域や教育施設からのイベントブースの開設要請に対して、自主組織や京エコサポーターが参加する組織を紹介しました(省エネ普及ネット・京都、幼児のための環境学習プログラム作成の会、長岡京市環境の都づくり会議)。

結果 3

くらしの匠事業に登録の14人に対しては、地域エココミュ



近況報告により、お互いの活動を刺激

ニティーの創出に向けた技術的手法や知識の習得のため、講師を招いた研修会を実施し、地域環境活動をコーディネートしました。

結果 4

サテライトで想定している省エネ相談所の開設を、省エネ普及ネット・京都の京エコサポーターグループの協力で行うために専門家を招いた研修を企画しました(実施は22年度、ボランティア向け体系的研修プログラムに組み込み)。

目標 3

エコメイトと京エコサポーターの意見交換会を実施し、京エコサポーターからエコメイトの3年後の計画に役立つ活動事例などを紹介します。



ワークショップを交え、活性化を図る

結果 1

エコメイトとの意見交換会を実施しました(11月の参加者12人、2月の参加者26人)。

[エコメイトからの主な意見(開催動機)]

3年先の具体的な活動イメージがもてない(先が見えない)
3年後の設計へ、活動フィールドが組織的に整備されているべき(例えば、地域の環境委員会相談役など)。

目標 4

京エコサポーターによるNPO設立等をサポートするための情報収集と講習会を検討します。

結果 1

NPO設立希望団体向けの準備として、市民活動総合センターでのヒアリングを行いました。



様々な情報の共有化により、活動の幅が広がった



4

子どもから大人まで環境ひとづくり

■地球環境保全リーダー養成・研修

■親子エコセンクラブ

地球環境保全リーダー養成・研修

子どもから大人まで環境ひとづくり

目標 1

地域で活躍できる環境リーダーづくり(環境教育リーダー養成)や環境専門的知識習得によるリーダーづくり(自然エネルギー学校in京都)をパートナーシップ型委託事業として行い、企画や運営、獲得目標について委託先と十分に協議していきます。

結果 1

環境教育リーダー養成講座
(5/17～8/1 全6講座 受講者17人)

開講	テーマ	備考
5/17	はじめよう環境教育講座への期待	第6回で3グループがプログラムを企画し、プレゼン。プレゼンには企画案をセンターでの事業化の検討のため、次長以下が参加。
5/31	自然のふしぎ・おどろきを体験しよう	
6/13	まちあるきインタープリター入門	
6/28	グリーンコンシューマーでひらく新しい社会	
7/19	地球温暖化と環境教育教材づくりの基礎理解	
8/1～2	環境教育プログラムをつくってみよう	

結果 2

自然エネルギー学校in京都

(8/29～1/30 全4講座に加え、フォローアップ講座受講者13人) [グループでの応募者(2～3人)ごとに、第2回で活動を企画し12月までに実践]

開講	テーマ
8/29	「自然エネルギー最新動向」 今自然エネルギーってどうなってるの?
9/12～13	学ぶだけでは物足りない、 自然エネルギー普及企画づくり
10/10	フォローアップ講座
10/31	「中間報告会」めざせ! 企画実践のトップランナー
1/30	「企画実施報告会」 みんなで語ろう、自慢はなし・苦労はなし

結果 3

両講座とも委託先と事前協議を行い、センターから要望や提案を行いました。また役割分担を明確にしたパートナーシップ型事業として実施し、実践的な内容の講座となりました。

目標 2

教育現場、環境学習現場でのリーダーづくりに向けて、学校現場や各種団体、専門家と協議し、第6回京都・環境教育ミーティングを企画します。

結果 1

コアメンバーによる会議を行い、順次積み重ねていくことを確認しました。

第6回環境教育ミーティングを開催しました。(1/31 発表事例30組/153人)



過去最大の参加があった京都環境教育ミーティング

目標 3

センターの講座修了生で環境リーダーとして活躍するメンバーのネットワークを準備し、養成講座等で活動実例報告などの協力を求めています。

結果 1

環境教育リーダー養成講座と自然エネルギー学校・京都の修了生のメーリングリストを活用して準備をすすめました。修了生の一部は自分で企画したイベント情報の配信に活用しています。



修了後の活発なやりとりが起こったリーダー養成講座

目標 4

職員・ボランティアも環境活動に携わる人材であり、事あるごとにスキルアップ研修を実施します。



1年の活動を振り返った3月の講座

結果 1

エコメイト対象ステップアップ研修

4月	「プログラムのきほんのき」 (講師/養成講座担当講師)
7月	「大人向け団体見学について」(講師/職員)
9月	「中間ふりかえり」(講師 養成講座担当講師)
3月	「エコメイト活動1年を振り返って」 (講師/養成講座担当講師)

結果 2

職員対象ステップアップ研修

8月	「ボランティアコーディネーション」 (講師/龍大 筒井のり子教授)
10月	「環境モデル都市構想」 (講師/地球温暖化対策室職員)
11月	ボランティアコーディネーションとは? (講師/養成講座担当講師)



親子エコセンクラブ

子どもから大人まで環境ひとづくり

目標 1

エコセンに自転車で通える範囲の親子が、一年間（月2回／年23回）の継続プログラムの中で、食の循環（生ごみ→ミミズコンポスト→米・野菜を育てる→エコクッキング→生ごみ）を体験します。



4年の実績を積み、より充実したプログラム

結果 1

実施スタッフ:職員2~3人、ボランティア12人が一年を通してサポートしました。

登録28家族94人（内、こどもリピーター20人／こども登録者43人）。22回実施（4/25~3/13）（内、おとな向け講座を月1回のペースで実施）。

結果 2

継続的に米や野菜づくりの体験から食の循環に携わる原体験の場を提供しました。

ゴーヤ苗植え（5月）、稲苗植え（5月）

生物観察（6月~8月）、冬野菜植え（8月）

ゴーヤの収穫（9月）、稲刈り・脱穀・粳摺り（10月）

収穫祭（11月）、壁新聞づくり（11月）

イベント出展（12月）、土づくり（1月~2月）

クロージング・お別れ遠足（2月~3月）

目標 2

普段何気ない存在の「食べ物・自然・環境」への見方が変わり、大事にする意識が芽ばえることを期待します。また人と関わりながら、自分が大事にされることで、他者を大事にする意識・コミュニケーション力、問題解決力を養います。

結果 1

自然体験だけでなく、“あそび”や“グループでの作業”で周りとの関わりを大切にする意識や場を提供しました。自然や周りの環境、人を大切にする意識や協調性が芽ばえました。

結果 2

おとな向け講座「おや?親!親講座」では食育やこどもをテーマに実施しました。



過去の参加者がスタッフとして関わりはじめた

5

インターン研修生受入

■インターン、研修生受入

イ

インターン研修生受け入れ

インターン、研修生受入

目標 1

夏期に大学生のインターンを受け入れ、来館者対応やイベント企画、実施に実績を積む場の提供を行います。



インターン生が日替わりのイベントを実施

結果 1

大学生3人を受け入れました(石川県立大学、京都精華大学、京都教育大学)。期間中約50回、延べ500人の来館者に環境学習イベントを実施しました。

京都教育大学総合演習「環境教育の実践」(20人 5日間)を実施しました。

結果 2

展示の改善、短期ボランティア制度への提案、環境ボランティアとの協働のあり方、大学とセンターのつながり方など斬新な視点から意見を受けました。

結果 3

インターン生の1人がエコメイト新規養成講座を受講し登録しました。大学コンソーシアム京都の意見交換会(9/26)に参加し、インターン制度等で今後の方向性やあり方などを協議しました。



目標 2

「生き方探求チャレンジ体験(4日間)」でセンターを希望する中学生を受け入れ、京都市教育委員会の取組趣旨に沿った研修を実施します。

結果 1

深草中学校2人、藤森中学校3人を受け入れました。団体見学のサポート、ボランティアとの交流、展示作成業務補助等を体験しました。



中学生の職場体験を受入

目標 3

行政、事業者、NPO、海外からの受入要請があれば、依頼先の希望等を考慮した受入態勢を整えていきます。

結果 1

中国国家環境保護部「日中友好環境保全センター」のスタッフ3名の研修を受け入れ(1週間)、環境学習プログラム作成等の実践研修を行いました。



京エコロジーセンターのプログラムを中国へ”輸出”

6

イベントプログラムの企画と実施

■環境啓発

環境啓発

イベントプログラムの企画と実施

目標 1

市民や来館者が望む満足度が高いイベント実施に向け、参加者の反応やニーズなどを調査し、結果をデータ化して実状を総合的に把握して企画に役立てる手法を整えます。また職員などが実施している「京エコ劇場」でのミニワークショップを整理し、出前学習にまで対応できる環境学習プログラムへと発展させる準備を行います。



身近な環境の変化をテーマにセミナーを実施

結果 1

イベント参加者にアンケートを配布し、データ化・年齢別ニーズ分析を行い、イベント企画に一部を活用しました。

結果 2

インターンが企画したミニワークショッププログラムをシルバーウイークに実施するとともに、次年度以降、職員がミニワークショッププログラムに活用する手法を検討しました。

結果 3

”ふらりと来館した人”を対象としたイベント「京エコ劇場」を継続開催しました。

提供する内容や実施手法などは、次年度以降も検討を継続していきます。



目標 2

季節や企画展示と関連させたスペシャルイベント（毎月第3日曜日「エコセンイベントデー」）や、リピーターの獲得につなげる「○○シリーズ」等の連続イベントを企画します。



新しい切り口のイベントが、リピーターの確保につながった

結果 1

第3日曜日の「エコセンイベントデー」を毎月開催し、翌月のイベント告知を行った結果、リピーターを獲得できました。

結果 2

企画展と関連させ「4種類のエコな住まいのワークショップ」を開催しました。全シリーズを一括して情報提供し、参加希望のワークショップの選択肢に幅を広げました。

結果 3

人気の高いクッキングイベントは次年度には開催数の増加を検討していきます。

結果 4

次年度イベントのテーマと内容を早期に企画提案する準備態勢が整いました。

目標 3

タイムリーな環境をテーマに市民、大学生向け環境イベントや環境セミナー、環境活動交流会を企画します。また小学生の夏季自由研究で環境への疑問、質問があれば、これに応える工夫を行います。



京エコサポーターの自主組織がイベントを企画運営

結果 1

京都工織大と共同主催で企画展と学生によるワークショップ、教授による環境セミナーを開催しました（11月）。

結果 2

夏休みの自由研究の素材として「エコセンで働く人の自由研究展」を開催しました。（効果として、来館者を展示に誘導し、自由研究で環境を考えるきっかけを提供できました。）

結果 3

サクラの開花時期に合わせ、地球温暖化とサクラの開花をテーマにセミナーを開催（3月）、新聞やテレビ取材がありました。終了後参加者を対象に館内案内を実施しました。

目標 4

COP15に連動するCOPキャンペーンイベントを企画します。

(イベント一覧と35ページを参照してください)

《2009年度イベント一覧》

1 通常開催

エコセンわくわくひろば
エコセン☆シアター
京エコ劇場

2 企画展

COP15関連企画 自転車生活 再発見!(4~5月)
水のめぐみ!(6~7月)
エコセンで働くひとの自由研究(8月)
COP15関連企画
京都からCOP15へ 地球温暖化防止墨蹟展(8月)
こども絵画ワークショップ作品展(9月)
第6回エコ住宅素材展
～発見!ここちよいエコな住まい展～(9~10月)
「素材再生のデザイン」インテリア+グラフィック作品展(11月)
J.E.E.環境カレンダー展(11月)
COP15関連企画 環境にやさしい未来の京都 子ども絵画
作品展(12月)
ごみ今昔物語(1~2月)
エコメイトのできごと展(3月)

3 セミナー

京都で広げる自然エネルギー
「今知りたい!太陽光発電最新情報」(5月)
世界の人とエコライフについて語り合おう!
～自転車日本縦断中の環境団体BEEjapanがやってくる～(9月)
デザインが地球環境を良くする3つの方法(11月)
環境先進国デンマークにおける再生可能エネルギー利用促進
の取組(12月)
サクラサク ～地球温暖化とさくらの開花～(3月)



陶芸教室を初開催

4 特別イベント

開館7周年記念&アースデイ記念イベント
～地球とつながるエコロジーコンサート～(4月)
環境月間 エコセンうさぎまつり(6月)
夏のエコセン映画会「ウォーリー」(7月)
COP15開催記念映画会「北極のナヌー」(11月)
COP15関連 お店でエコ虫を探そう
～商店街からお家までやってみようエコ生活～(12月)
京都議定書発効5周年記念エコセン環境まつり(2月)
春のエコセン映画会「旭山動物園物語ペンギンが空をとぶ」(3月)
(英語スピーチコンテストforCOP15(10月 共催))

5 イベント

古新聞が大変身!ひねもすアートクラフト教室
～びっくりペーパークラフト～(5月)
昔ながらの紙芝居(5月・6月)
3R体験教室～紙すき、せっけんづくり～(5月)
環境人形劇(5月・6月)
不思議な楽器「レインサウンドスティック」づくり(6月)
びわ湖のヨシでヨシ笛づくり(7月)
陶芸教室 マイカップをつくろう(7月):マイ風鈴をつくろう(8月)
おやこエコクッキング(7月、10月、12月)
みつろうキャンドルをつくろう(8月)
おもしろ切り折り紙あそび(9月)
めざせ!京のエコ職人シリーズ③
～キモチも一緒に包んで贈ろう風呂敷ワークショップ～
とびだせ!竹の不思議発見塾!(シリーズ 11月 12月 4月)
お茶の時間を楽しまう～茶かぶきにチャレンジ～(1月)
米粉料理(3月)

《資料:2009年度図書コーナー情報》

図書(冊)	雑誌(冊)	ビデオ・DVD(本)	利用(人)	貸出数(冊)	登録者累計
5,462	882	532	1,060	1,357総数2,353	449

《その他.海外交流》

中国の国家環境保護部が進める「環境技術情報プラザ(仮称)」(環境学習施設)の建設に対し、JICA(国際協力機構)を通じ、京エコロジーセンターに展示やソフト開発の面で支援の要請がありました。

6、9、12、2月に職員を中国に派遣し、施設のコンセプト作

りからロードマップの作成支援、また、中国全土に点在する環境教育施設の担当者セミナーにおいては講師としての任務を遂行しました。さらに、年度末には、中国側担当者の訪日研修受入も行いました。



2

いろいろな主体による 環境保全活動への 支援事業分野

市民一人ひとりが地球温暖化防止と「持続可能な地域社会」の実現に向けた新しいライフスタイルを構築していくため、家庭や学校、職場など様々な場で環境保全活動を行う市民、事業者、NPO等を支援し、その人たちの交流の場となります。

1 地域での環境保全活動支援

2 環境保全活動団体へ助成支援

3 事業者、学生による環境保全活動への支援

1 地域での環境保全活動支援

- 外部イベント出展
- 地域環境学習支援
- 地域環境活動育成

外 地域での環境保全活動支援 部 イベント出展

目標 1

出展プログラムやツールを新規に開発し、各種団体主催の環境イベントで試行しながら精度を高めていきます。またブース参加者の環境に関する意識調査や出展者間での情報交換により出展プログラムやツールを検証します。



出展業務の見直しが見果たぬ

結果 1

出展43件、実施日数85日、参加者総数22,393人
 スタッフ：京エコサポーター延べ96人、エコメイト延べ77人が担当
 (参考)

	21年度	20年度	19年度
出展箇所	43	37	47
参加者数	22,393	10,964	17,119

(次年度にセンター基準の出展ブース参加者のカウント方法を確定する)

結果 2

新規プログラム案(ネイチャー系)を作成し、10月に右京区宕陰地区、梅小路公園の出展で試行しました。

結果 3

出展時の必要な備品の検証や追加など出展資材を見直し、コンパクト化、パッケージ化を図り、機動性を向上させました。
 体験を重視するブース出展と共に、センターのPRに力を入れました(PRパンフの内容説明と積極的な配布)。

目標 2

各種団体が実施する新規イベントの開催情報を収集し、出展対象にリストアップします。

結果 1

新規イベント21件に初参加しました。特に隣接する町内の「深草西浦町夏祭り(連続2日間開催)」に参加できたことにより、地域との関係構築に弾みがつきました。



地元地域との連携も視野に

目標 3

ホームページや広報媒体を使って環境啓発ツールの貸出し広報を充実させます。

結果 1

新規に作成した事業PRパンフレット「こどもじかん×おとなじかん」を館内配架や出展、団体見学で配布、また関係施設や開館以来の見学団体、旅行業者に郵送しました。



様々な出展状況に柔軟に対処

目標 4

環境問題については、市民の誰もが高い関心を持っているわけではありません。そこで、センターでは館外で催される様々なイベントに出展して、環境意識を高めるきっかけづくりをしています。担当以外の職員も参加して、環境問題の伝え方を紹介することにより、様々な市民層に対応できる力量を身につけます。

結果 1

出展時に担当職員以外も参加し、多くの体験から成果を残しました。



来館者層とは異なる層へのアプローチを模索

地域環境学習支援

地域での環境保全活動支援

目標 1

地域、家庭の環境意識の向上に向けた省エネ学習会やごみ減量学習会の開催など多彩な環境課題に専門的講師を派遣し、環境啓発や環境学習の取組をサポートします。

結果 1

(実績は下の一覧表をご覧ください)



各種団体の環境活動のサポート

目標 2

学習会実施団体や講師派遣制度利用団体の名簿を整理し、どの地域からの要望が多いか、環境地図を作成し、環境対策の元データとして活用します。

結果 1

過去の利用団体の整理の段階にとどまり、データ化は次年度に検討することになりました。



話者のトレーニングも実施

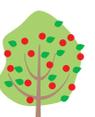
21年度実績

	登録講師	実施数	参加者	適用
省エネ学習会	15人	6件	170人	講師は、京エコサポーター 地球温暖化、ごみ減量、自然エネルギー、クッキング、腹話術、ネイチャー系 等
ごみ減量学習会	6人	8件	181人	
講師派遣	26人	26件	909人	

(参考)

(省エネ・ごみ減量学習会)	省エネ学習会			ごみ減量学習会		
	実施数	参加者(人)	講師(人)	実施数	参加者(人)	講師(人)
18年度	25	701	48	8	181	10
19年度	37	966	70			
20年度	15	419	25			
21年度	6	170	12			

(講師派遣)	実施団体(数)	参加者(人)	講師派遣 テーマ			
			温暖化	3R	ものづくり	その他
18年度	17(20)	628	5	9	2	4
19年度	27(28)	2,061	11	10	3	4
20年度	19(21)	1,076	10	7	2	2
21年度	19(25)	909	8	7	5	5



目標 3

職員による教育機関、地域団体での講演用プログラムの策定準備を開始します。

結果 1

環境教育プログラム事業と連動させて実施しました。
立命館大学国際平和ミュージアム主催の夏休み親子企画事業でごみ減量学習会を実施しました(8月)。
京都市立北醍醐小学校へ出前学習を実施しました(9月)。
伏見区役所深草支所の職員研修に講師を派遣しました(12月)。



職員による出前学習の機会が増加

地域での環境保全活動支援 地域環境活動育成

目標 1

くらしの匠の養成と研修を行い、くらしの匠事業参加地域で環境活動をコーディネートします。また昨年の取組と経験を活かした地域支援コーディネートマニュアルを作成し、他の参加地域で活用していきます。

結果 1

くらしの匠登録者は14人。くらしの匠研修を実施しました(7月)。
新規14地域 継続3地域。延べ140人のくらしの匠が地域活動をコーディネートしました。



地域での継続した活動から今後の方向性を見出した

年度	くらしの匠	実施地域数	世帯総数	参加団体等(20年度の波線は21年度も継続実施)
21	(延べ) 140人	17	163	勸修女性会、蜂ヶ岡中PTA、嵐山東学区、嵐山東さくら、宇多野学区、南太秦小PTA、嵯峨野小PTA、西院西田町、常磐野小PTA、下京中PTA、西京極中PTA、深草女性会、柘野女性会、紫竹学区保健協
20	(延べ) 104人	9	108	藤森小PTA、安朱学区、音羽学区、勸修学区、三条会商店街、修学院第二小PTA、上高野学区、大將軍商店街、大宮学区

目標 2

環境省子どもエコクラブ加入団体との連携を図り、加入団体の活動内容を調査します。またセンターの主なイベントや取組を紹介し、来館を求めています。

目標 3

行政施設でサテライトの設置可能なところについて所管部局に打診します。

結果 1

伏見区役所新庁舎への移転に伴い、設置スペースを協議しましたが、その他行政施設への働きかけは次年度送りとなりました。

大手スーパーなどを対象に設置を検討し、一部施設にプレゼンを行いました。

目標 4

伏見板橋地域の環境活動支援として地元を取組のプロセスデザインを提示し、夏祭りのエコ化の成功を目指します。

結果 1

板橋地域の経過

2008年夏祭り、自然エネルギー体験ブース出展とごみの調査を行いました。

2008年12月、2009年2月に講師を派遣し、学習会を開きました。〔ごみ減量と3R、グリーンコンシューマー〕

2009年夏祭り、リユース食器260食分を試行的に導入し、次年度の完全導入に道筋をつけました。

2010年2月、ごみへの理解を深めるため、南部クリーンセンター、横大路学園、廃食用油燃料化施設への見学ツアーを実施しました（伏見板橋小PTA、幼稚園PTAから30人参加）。

結果 1

登録12団体（登録者総数1,153人（新規加入は3団体））に全国事務局や京都府からの情報、資料、グッズおよび星空観察会、いきもの調査への参加呼びかけを送付しました。

結果 2

定期的開設したい省エネ相談所については、9月に山科区役所関係団体の主催するイベント、2月に右京区役所イベントでセンター主催として試行実施しました。



地域との連携を今後の重要課題に位置づけた



2

環境保全活動団体へ助成支援

■環境保全活動助成

環境保全活動団体への助成支援

環境保全活動助成

選考小委員会

第1回6/22 7団体を採択(選考対象8団体)、第2回7/27 3団体を採択(選考対象4団体)
採択10団体中5団体が新規応募団体(採択団体と取組内容は33ページを参照してください)

目標 1

新たな支援メニューを追加すると共に、募集要項を応募しやすいように簡略化します。

結果 1

新たな支援メニューとして、最初の単年度のみ応募可能な上限5万円とする対象経費全額助成コースを設定しました。3団体が応募(2団体を採択)。助成金制度の“敷居を低くする”ことに一定の役割を果たしました。

結果 2

募集要項及び申請書類様式を簡略化しました。



きょうとグリーンファンドの活動

目標 2

助成事業実施団体報告会でネットワークづくりと助成団体間の連携事業の実施を提案します。また連携事業が企画され、環境活動に有効と判断できれば、新たな財政的支援を考慮します。

結果 1

事業完了報告会でメーリングリストを提案、了解を得ました。（報告会では、事業実施団体から助成対象費目など助成内容に関する意見が多く出されました。）

結果 2

センターの人的資源ともいえる「エコメイト」「京エコサポーター」との連携を目指し、事業実施団体とボランティア双方への情報提供にもメーリングリストを活用することを検討しました。



コンシューマーズ京都の活動



名神深草森の会の活動

目標 3

京都市ごみ減量推進会議など京都市の関連組織が行う補助金事業と「すみわけ」調査や検討を行い、センターの助成事業のあり方を検討します。

結果 1

京都市ごみ減量推進会議事務局と意見交換を行いました。成果等は得られていません。



ストップ・ザ温暖化と環境保全クラブの活動



3

事業者、学生による 環境保全活動への支援

■地球環境保全へ企業・事業者との連携と支援

■学生支援

地 球環境保全へ企業・事業者との連携と支援

事業者、学生による環境保全活動への支援

目標 1

企業・事業所内の環境担当者が自社内の環境リーダーとしての役割を果たすために、環境知識や企画力の習得をテーマに環境セミナーを実施します。

結果 1

京都市と共催で「事業者向け環境学習セミナー（全5回）」を6～7月に開催しました。

修了証書交付者38人、認定書交付企業・事業所数36箇所という結果が得られました。

講座内容

回	テーマ	受講者
1	考えよう! 環境問題に取り組む企業の社会的貢献活動	50人
2	すすめよう! 事業所内環境活動	50人
3	施設見学会:京都エコロジーセンター&事業者取組報告	45人
4	施設見学会: 株式会社京都環境保全センター	44人
5	デザインしよう! 事業者による環境活動	47人



事業所の環境担当者が参加したセミナー

目標 2

環境保全やKESに取り組む企業・事業者のうち、環境セミナーの参加者リストを整理し、センターの環境情報発信に活用することを検討します。

結果 1

京都市と過去のセミナー参加者名簿を次年度活用に向け整理しました。

事業者向け講師派遣として、京都タワーホテル従業員を対象に学習会を実施しました(10/20 50人 省エネ・省資源)。

学生支援

事業者、学生による環境保全活動への支援

目標 1

大学コンソーシアム京都での単位互換制度により環境講座「京エコロジー概論」を主催します。受講生の調査などから次年度の開講についての判断を行います。

結果 1

3年目の概論として4月から7月まで14講座を開講しました（龍谷大学増田恵子教授の受持講座として毎週火曜日、第1講目）。京女大などから7人が受講しました。



エコロジーセンターを会場にした京エコロジー概論

開講日	テーマ
4/14	ガイダンス 環境教育の現場で『気づき』体験
4/21	温暖化は今① 環境問題総論 ～いま、地球に何が起きている？～
4/28	温暖化は今② 行政の取組 京都市の地球温暖化対策について
5/12	温暖化は今③ NPOの取組 待ったなしの地球温暖化対策 ～京都議定書から第二約束期間へ～
5/19	温暖化は今④ 温暖化問題と自然エネルギー ～エネルギーが変われば、未来が変わる～
5/26	フリー討論 新型インフルエンザのため休講
6/2	廃棄物問題は今① 家庭からのごみ ～3Rから2Rへ～
6/9	廃棄物問題は今② 行政の取組 京都市のごみの現状とごみ対策について
6/16	廃棄物問題は今③ NPOの取組 地域イベントからごみをみる ～リユース食器の普及とごみ減量～
6/23	廃棄物問題は今④ 事業者の取組
6/30	フリー討論
7/7	環境教育を実践する 気づきから行動へ ～こどもたちへの環境教育～
7/14	プレゼンテーションと講評①
7/21	プレゼンテーションと講評②

結果 2

受講者数の問題や講義内容の再検討から、次年度は、学生の人気が高いとされる「夏期集中講座」として開講を決定しました。（京都発!エコデザイン学 定員30人）（近隣大学生に「受講してみたい授業」についてアンケートを実施しました）



目標 2

市内の大学に「学生による環境活動サークル」の紹介を依頼し、実態調査を開始します。

結果 1

立命館大学、龍谷大学、京都教育大学のボランティアセンター職員に学内の環境サークルや学生の求める支援についてヒアリングを実施しました。

(参考)平成21年度環境保全活動助成採択事業一覧表

タイプA(上限50万円)		
事業名	申請団体	助成金
企業及び学校を対象とした自然エネルギー普及への理解と実践活動を促す活動	認定NPO法人 きょうとグリーンファンド	247,750円
「京都からCOP15へ市民の声を」キャンペーン	特定非営利活動法人コンシューマーズ 京都(京都消団連)	400,000円
タイプB(上限15万円)		
事業名	申請団体	助成金
生物多様性保全に向けたカンキョウ都教育・学習支援プロジェクト	NPO教育研究機関化学物質管理ネットワーク	150,000円
2R機材での園芸緑化と省エネ学習活動によるコミュニティの復活と活性化を図る活動	特定非営利活動法人ストップ・ザ温暖化と環境保全クラブ	150,000円
京都親子ファッションショー2009	Baby tomato	150,000円
有害物質による生活環境汚染防止の啓発と健康被害者の支援	京都カナリヤ会	130,000円
自然(樹木)観察会の開催と植樹会・ツリーづくりイベントの開催	名神深草森の会	50,000円
レジ袋から容器包装削減・2R実現プロジェクト	特定非営利活動法人 環境市民	150,000円
タイプC(上限5万円)		
事業名	申請団体	助成金
PV-Net 太陽光発電設備の研究と普及活動	NPO法人太陽光発電所ネットワーク PV-Net京都地域交流会	50,000円
—古川町商店街 楽しいこと計画—	茶食楽作来楽(さくらさくら)	50,000円

3

持続可能な地域社会への提案、 情報発信と交流事業分野

持続可能な地域社会への具体的な提案やパートナーシップによる環境保全活動の成果を、京都市を中心に国内外に広く発し、他の地域との連携や学びあいを進めていきます。

1 情報発信・広報対策



1

情報発信・広報対策

■情報発信と地域社会への提案

■ホームページ編集強化

情報発信と地域社会への提案

情報発信・広報対策

目標 1

京都議定書で約束されている削減数値目標達成への取組啓発とCOP15への世論形成に向けたイベントと連携させた情報発信を実施します。

結果 1

協力地域を選定し、「CO2排出量削減省エネ啓発」の取組を実施しました(12/5三条会商店街と連携、省エネ機材の貸出。企画：ひのでやエコライフ研究所)。

結果 2

京都からCOP15へ…つくろう気候保護法 法然院で地球温暖化展に共済事業として出展しました(6/23~28)。
法然院で展示された宗教者による墨蹟をセンターの企画コーナーで展示しました(墨蹟展8/8~9/9)。
国連世界気候週間キャンペーンをセンターで行いました(9/21~25)。
COP15開催記念映画「北極のナヌー」を上演しました(11/15)。

結果 3

子ども絵画展を企画展として実施しました。(11月 京都市が募集した作品を展示。優秀作品はCOP会場で展示しました)
京都市が行うメッセージクロスや助成金団体が行うメッセージカードに協力しました。
クールな地球へ!京都アクション2009に参加しました。(12/12)

目標 2

情報配信先で、センターの取組の掲載依頼や迅速かつ正確な情報が提供できる態勢を確立します。



京都環境イベントカレンダー

目標 3

機関紙のコンセプトを踏襲し、ニュースレターとして「読みやすさ」「見やすさ」に磨きをかけ、定期発行を行います。特集テーマの決定は編集委員会(仮称)が行います。



機関紙「えこせん」

結果 1

「京都環境イベントカレンダー」を「えこいべ」に改定し、平成22年4月より配布することになりました。

改定の背景

館外施設での配架状況(残部/配架依頼数)の実態調査
イベント参加者のアンケート結果分析から対象者の明確化
対象者層を親子、子ども向けに限定、大人向けや共催イベントはHPを活用することに決定しました。

配布先を拡大しました(子育て活動いきいきセンター、地域子育て支援ステーションの127箇所)。

結果 2

定期発送物にアンケートを同封し、読者の意見を集約しました。

結果 1

ニュースレターえこせんを第3号から第7号まで発行しました。

テーマは市域で環境に配慮した取組を行っている店舗や地域を特集し、関連テーマのwebサイト等の紹介を行いました。

夏至(第3号・6/25発行)

「特集:使い終わった紙の活用法を考える」

処暑(第4号・8/25発行)

「特集:国産食材使用率が高いお店には『緑提灯』」

小雪(第5号・11/25発行)

「特集:いいものをずっと、大切に」

冬至(第6号・12/25発行)

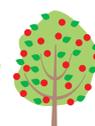
「特集:地域の生活とともに歩み続ける商店街」

雨水(第7号・2/25発行)

「特集:京都の風土が育んだ伝統の豆腐づくり」

結果 2

編集委員会は設置できませんでしたが、担当者間で特集テーマを協議して発行しました。



目標 4

事業報告書やセンターガイドブックの発行、配布で市民へのセンター事業の公開とセンターの活用促進を目指します。

結果 1

平成21年度事業報告書の発行を決定しました。
2万部の事業PRパンフレット(こどもじかん×おとなじかん)を配架、配布しました。カフェなど気軽にパンフレットを手にとることが出来る様な場所にも置かせてもらいました。
館外イベントでの配布は手軽さが好評を得ました。

目標 5

3R検定事業を推進し、ごみ問題や環境課題を手がける「ごみ」リーダー層の拡充を図ります。

結果 1

京都、大阪、東京に加え、今年度、神戸、福岡に試験会場を設定して3R検定を実施しました。
3R検定の実施に賛同する地元団体とのパートナーシップにより講習会、合格者フォローを行いました。
11月1日から11月30日までを申込期間とし、検定日は1月10日、受講者は647人で合格者513人となりました。

ホームページ編集強化

情報発信・広報対策

目標 1

タイムリーでスピーディーな情報提供のための活用方法を検討します。またセンターに対する注目度を高めるため、迅速なイベント報告ができる内容のアップを考えます。

結果 1

イベント報告をブログにアップしました(「タイトル 今日のえこせん 6/15から」)。
目標に掲げている毎日の更新はできず、確実な更新をする仕組みを検討しました。

結果 2

リニューアル時期は平成22年10月と設定しました。

目標 2

世界への情報発信に応えられる「英語表記のセンター概要説明」が可能かどうか、などの発信内容を検討します。

結果 1

リニューアルにあわせて検討することを確認しました。

エコセンから発信する京都の環境



京都市地球環境政策監
大島仁さん

私たちが暮らすまち京都は、1200有余年もの間、市民一人ひとりの力によって、山紫水明と称される美しい自然と優れた伝統文化を育み、持続的発展を続けてきました。しかしながら、近年、化石燃料の大量消費に依存する暮らしが地球温暖化を招き、この京都にも様々な影響を与えようとしています。

京都市が、全国に先駆けてこの京エコロジーセンター（略称：エコセン）を開設したのは、市民・事業者・学識経験者・NPOなど多方面で活躍する皆様の力をここエコセンに結集し、地球温暖化防止活動の輪を市民全体に広げていくためです。

京都市では、地球温暖化対策を強力に押し進めるため、温室効果ガス排出量を2020年度までに1990年度比25%削減し、2030年度までに40%削減という、高い目標を掲げます。目標を達成し、京都の環境を未来に引き継いでいくためには、エコセンからの発信力が不可欠です。これからも皆で力を合わせて、世界に誇る環境都市・京都を育てていきましょう！

人や地域とつながる環境活動の拠点



気候ネットワーク 事務局長
田浦健朗さん

京都における環境活動・環境教育の拠点である京エコロジーセンターは、これまで、環境活動を進める人づくりと場づくり、モデル的な先進事例の創出などの実績を積み重ねてきていると思います。また館外での地域組織や団体との連携、地域活動の支援を行っていることも評価されるべき活動でしょう。運営・活動をパートナーシップで行っていることも重要な特色で、より多くの市民が参加し、関係する団体・組織との連携につながっていると考えます。約150万人の人が住み、様々な経済・社会活動が盛んな京都を、京都市民、事業者、地域組織、行政、教育機関等が連携して持続可能な京都に変革させていくための拠点の一つが京エコロジーセンターであると言えます。パートナーシップの強みを活かし、常に新しいチャレンジをしていくことで、今後も成果をあげていくことを期待しています。

設立段階から多様な主体との協働を堅持する拠点



大阪大学大学院法科研究科教授
大久保規子さん

「参加と協働による持続可能な社会づくり」という理念の実現は容易ではない。活動の成果は必ずしも数値化できるものではなく、各地で協働疲れともいえるべき現象も生じている。そのような中、エコセンは、設立の準備段階から多様な主体との協働を堅持し、日本をリードする取組みを企画・実践してきたユニークな地域拠点である。

環境配慮が「見える化」された建物も新鮮であったが、エコセンは単なる施設ではない。管理・運営へのエコメイトの参画、そのOBとの連携は人づくりの要であり、各種館外プロジェクトにより、京都全域での活動も展開されてきた。

折しも、全国で初めて制定された京都市地球温暖化対策条例の改正作業が進められている。常に新たなメンバーと設立の理念を共有しつつ、次の10年をどのように描くのか。ダイナミックに深化し続ける場としてのエコセンに、大いに期待する。

エコセンが社会に対して果たしている役割



エコメイト8期
澤井美千代さん

このセンターは、誰もが気軽に、地球温暖化について学び、人間と地球の共生の重要性を知り、その為に出来ることからスタートさせる出発点の場になっています。

小学生の環境学習はもちろんの事、市民団体、町内会、PTA等、色々なグループの方たちが学習に来られ市民レベルでのいろいろな意見交換できる折は、来館者も、私たちエコメイトにとっても連帯感を生み、みんなで次世代の為に地球温暖化防止に頑張ろうと、明日のパワーにつながります。

又、職員とエコメイトが一緒になって年、数回行うイベントを通じ、地元地域から京都、京都から全国、日本から世界へと低炭素社会実現の輪を広げる情報発信のエコステーションにしたいと思っています。

外国からの来館者も多く、ドイツ国営TVから京都市民が温暖化防止のために、どの位意識を持って頑張っているか取材に来られたり、韓国の大学生グループが、エコメイトの事を韓国の新聞記事で知り、どの様に募集、育成され活動しているか、訪問を受けた事もありました。又、アフリカのコートデブアールの廃棄物研究者の方が日本の大学を通じて来館された事もあり、外国との交流の大切な拠点にもなっています。

